

音楽科学習指導案

I 題材 和音の美しさを味わおう

II 考察

1 題材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

③学びに向かう力・人間性等

和音の響きのよさや美しさを味わいながら、進んで音を合わせて表現する態度

①知識・技能

曲想と和音の響きとの関わりを理解し、全体の響きを聴きながら、きれいに音を重ねて合唱や合奏をしたり、旋律づくりをしたりする技能

②思考力・判断力・表現力等

聴き取ったり感じ取ったりして音や音楽を捉え、曲想に合った和音の美しい響きで音楽表現を工夫する力

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

A表現(1) ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。
ウ(ウ) 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能
(2) ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。
イ(ア) 曲想と音楽の構造との関わり
ウ(ウ) 各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能
(3) ア(イ) 音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。

(3) 本題材の学習とその価値

本題材は、長調と短調の和音の美しい響きを味わい、全体の響きを聴きながら合唱や合奏をしたり、和音の構成音から音を選んで旋律づくりをしたりする学習である。その価値は以下のとおりである。

和音の響きとは、長調や短調など調性のある音楽において、音が重なることによって生まれる響きのことである。和音の響きを意識しながら鑑賞したり、音楽表現をしたりすることにより、きれいに音が重なっていることで生まれる心地よい響きを感じ取ることができる。その響きが和音により生み出されていることを感覚的に理解し、音楽表現をしていく中で、きれいに音を合わせて合唱や合奏をする技能が高まっていく。さらに、和音の構成音を使って旋律をつくることにより、和音の響きを生かそうという思いや意図を高めて旋律づくりをすることができる。

「星の世界」は、3声部を重ねることで長調の和音の響きが生まれる曲である。「雨のうた」は、アの部分イ短調の、イの部分ハ長調の和音の響きが生まれる三部形式の曲である。子どもたちは、リコーダー①・②、鍵盤ハーモニカ①・②、低音楽器の旋律を重ねることにより生まれる短調と長調の響きを比較することにより、長調や短調に関わらず、Iの和音は解決する感じ、IVやVの和音は次につながる感じや不安定な感じを生むことに気付くことができる。そし

て、それぞれの和音の響きや曲想に込めた作曲者の思いや意図を、場面の様子から汲み取ることは、曲に対するイメージを膨らませ、自分なりの思いや意図をもって、音楽表現をすることにつながっていく。

このように、和音の響きを感じ取りながら、音楽表現をすることや旋律づくりを繰り返すことは、生活の中でも音や音楽と親しんでいく態度を身に付けることにつながる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、6年「合奏の喜び」で、リコーダーや低音楽器に、木琴や鉄琴などの楽器を増やした編成で、全体の響きを聴きながら合奏をする学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、5年「和音の美しさを味わって」において、ハ長調のⅠ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅴ₇の和音を知り、ハ長調の和音の響きを味わいながら歌唱や合奏、音楽づくりをしてきた。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本題材を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

① 曲想とハ長調の和音の響きとの関わりを理解してきている。このような子どもたちが、曲想と長調・短調の和音の響きとの関わりを理解できるように、「星の世界」と「雨のうた」の単旋律の響きと和音の響きから思い浮かぶイメージの違いを聴き比べる時間を設定する。

ハ長調の和音の響きを感じ取りながら音楽表現をしてきている。このような子どもたちが、各声部の役割を意識し、和音の響きを感じ取りながら音楽表現ができるように、主旋律と低音楽器の旋律同士や和音の旋律同士など、声部の組合せを変えて繰り返し合奏する時間を設定する。

② ハ長調の明るい響きで音楽表現をしたいという思いや意図をもち、音色を工夫してきている。このような子どもたちが、曲想に合った和音の美しい響きで音楽表現をしたいという思いや意図をもち、強弱を工夫して調和の取れた音楽表現ができるように、グループ同士で互いの演奏を聴き合い、感じたことを伝え合う機会を設定する。

③ ハ長調の和音の響きに関心をもち、和音の美しい響きを味わい、進んで音楽表現をしてきている。このような子どもたちが、長調・短調の和音の美しい響きに関心をもち、進んで音楽表現ができるように、長調と短調の「星の世界」の比較鑑賞をし、和音の響きの違いを味わう活動を設定する。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

Ⅴ 本時の学習

- ねらい グループで音を合わせて演奏したり、グループ同士で聴き合ったりする活動を繰り返すことを通して、奏法の工夫を考え、和音の美しい響きで合奏をすることができる。
- 準備 前時まで学習したことをまとめた模造紙 模造紙 短冊 拡大譜 学習プリント
- 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点

- 1 本時のめあてをつかむ。
- ・「星の世界」のように「雨のうた」もきれいな響きで、音を重ねて演奏したいな。
 - ・しとしとと雨が降る様子を表現したいけれど、和音の響きがきれいではないし、音の強さがイメージとも違うな。どのようにすればしとしとと雨が降る様子を合奏で表せるのだろう。
- 2 奏法の工夫をグループで考えながら、合奏をする。
- ・和音の美しい響きで演奏したいな。お互いの旋律をよく聴きながら、パートの役割を意識して演奏すると、きれいな響きになるのだったな。
 - ・しとしとと雨が降る様子を表現したいから、和音の旋律や低音の旋律を、優しい息で吹いてみたらどうか。
 - ・友達のグループは、主な旋律を強めの息で吹いたのだな。和音や低音もしっかり演奏しているから、強めの雨が降っている感じの響きだな。しとしとと雨が降る様子を表現するためには、主な旋律も優しい息で吹くとよさそうだけど、2回目のアで優しい雨から強い雨にするのも面白そうだな。
 - ・強い雨を表現するために、息を強く入れてみたら、目指している音ではなくなってしまったよ。友達のグループは、太くて温かい息をイメージしたのだな。僕も、太くて温かい息で主な旋律を吹いてみよう。
- 3 本時のまとめをする。
- ・各声部の役割を意識して強弱を工夫したらきれいな響きで自分たちのイメージに合った合奏ができるようになってきたよ。
 - ・次の時間も、より自分たちのイメージに近づくように、工夫を考えて合奏したいな。

- 和音の学習に対する興味・関心をもてるように和音の響きを聴きながら「星の世界」を歌うよう促す。
- パートの役割を意識して強弱を工夫し、グループの目指す音楽表現に合った合奏をするという本時の見通しをもてるように、全員で合奏する時間を設定し、目指す音楽表現と現在の完成度との差を問いかける。
- 和音の美しい響きで演奏するための奏法を想起できるように、これまでに学習した、旋律をきれいに重ねて演奏するためのポイントを記した模造紙を見返すよう促す。
- グループの目指す音楽表現に合った奏法を見付けられるように、グループで考えた表現方法の工夫を試しながら合奏をするよう促す。
- 自分たちの合奏に対する思いや意図をふくらませられるように、「旋律の重なる響き」と「工夫していること」の視点で、友達のグループと合奏を聴き合い、アドバイスし合うよう促す。
- 自分のグループの合奏を、目指す音楽表現に近づけていけるように、試しながら音楽表現を工夫することと、グループ同士で発表し合うことを繰り返し行う時間を設定する。

評価項目

和音の美しい響きで合奏をするための奏法を考えて発言したり、各声部の役割を意識して強弱を工夫しながら合奏をしたりしている。
 <演奏・学習プリント②>

- 本時での音楽表現の高まりを実感できるように、旋律の重なる響きと工夫したことを意識して、合奏をするよう促す。
- 次時への意欲をもてるように、目指す音楽表現に向けて、音楽表現の工夫をグループで協力して考えながら合奏ができたことを賞賛する。

目標	和音の美しい響きを味わい、全体の響きを聴きながら工夫して音楽表現をする。				
評価 規準	(①知識・技能)曲想と和音の響きとの関わりを理解し、全体の響きを聴きながら合唱や合奏、旋律づくりをしている。 (②思考力・判断力・表現力等)曲想に合った和音の美しい響きで音楽表現をしたいという思いや意図をもって、歌い方や奏法を工夫して音楽表現をしたり、旋律づくりをしたりしている。 (③主体的に学習に取り組む態度)和音の響きのよさや美しさを味わい、進んで合唱や合奏、旋律づくりをしている。				
教材	ア…星の世界 川路柳虹 日本語詞 コンバース 作曲 飯沼信義 編曲 へ長調 4分の4拍子 イ…雨のうた 鹿谷美緒子 作曲 イ短調 ハ長調 4分の4拍子 ウ…和音の音で旋律づくり				
過程	時間	配分	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>
つかむ 追求する	1	ア	○「星の世界」を歌い、『和音の美しい響きを感じ取りながら、声や楽器の音を合わせて歌ったり演奏したりしよう』という学習のめあてをつかむ。	○長調と短調の和音の響きの違いを感じ取れるように、へ長調とへ短調の「星の世界」の比較鑑賞をする時間を設定する。	◇和音の美しい響きを感じ取り、長調と短調の和音の響きの違いについて発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント③>
	1	イ	○「星の世界」を合唱したり、「雨のうた」のそれぞれの旋律を各楽器で演奏したりする。	○和音の響きと曲想との関わりに気付けるように、単旋律の響きと和音の響きから思い浮かぶイメージの違いを聴き比べる時間を設定する。	◇和音の響きにより曲想が変わることについて発言したり、記述したりしている。 <発言・学習プリント①>
	1		○「雨のうた」の旋律を、色々な重ね方で試して合奏をし、グループごとの目指す音楽表現を考える。	○「雨のうた」の場面の様子を想像できるように、雨と晴れの天気の写真を提示する。	◇「雨のうた」の場面の様子を想像し、色々な旋律の重ね方を試しながら、合奏を工夫している。 <演奏・学習プリント②>
	2		○和音の美しい響きで合奏する方法をグループで考えながら、合奏をする。(本時1/2)	○強弱や音色を意識できるように、グループ同士で互いの合奏を聴き合う機会を設定する。	◇和音の美しい響きで合奏をするための奏法を考えて発言したり、各声部の役割を意識して強弱や音色を工夫しながら合奏をしたりしている。 <演奏・学習プリント②>
	1	ウ	○I・IV・V ₇ の和音から、音を1つずつ抜き出して旋律づくりをする。	○和音の響きと自分のつくった旋律が重なり合う響きを楽しめるように、和音の伴奏CDを用意する。	◇和音の響きを聴きながら、自分のイメージに合う音を選び、進んで旋律づくりをしている。 <演奏・学習プリント③>
1		○色々なリズムを試しながら、旋律づくりをする。	○リズムの変化により生まれる曲想を基に、自分のイメージに合ったリズムを選べるように、同じ旋律でリズムだけを変えた旋律を例示する。	◇思いや意図をもち、音やリズムを変えて、自分のイメージに合う旋律づくりをしている。 <演奏・学習プリント②>	
まとめ	1		○「星の世界」を合唱したり、「雨のうた」を合奏したり、自分でつくった旋律を演奏したりする。	○和音の美しい響きを感じ取れるように、グループごとに発表を聴き合う時間を設定する。	◇和音の美しい響きを感じ取り、全体の響きを聴きながら、進んで歌ったり合奏をしたりしている。 <演奏・学習プリント>
〔共通事項〕(要素)和音の響き、音の重なり、旋律 (用語)イ短調					